

第3回諏訪市総合計画審議会 会議録

○ 日 時

令和3年10月29日（金）午後1時～2時37分

○ 会 場

諏訪市役所 5階 大会議室

○ 出席者

< 諏訪市総合計画審議会委員 >

宮下和昭委員、小島郷史委員、小池玲子委員、小林佐敏委員、佐藤よし江委員、
春間光也委員、佐久秀幸委員、岩波寿亮委員、藤森洋子委員、遠藤恵美子委員、
有賀修二委員、島津美穂子委員

< 第六次諏訪市総合計画策定部会委員 >

後藤副市長、松木総務部長、前田企画部長、金子市民環境部長、守屋健康福祉部長、
樫尾建設部長、茅野水道局長、細野教育次長、藤森議会事務局長

< 事務局 >

寺島企画政策課長、下澤企画政策係長、茅野企画政策係主査、前田企画政策係主査

○ 会議概要

- ・第2回諏訪市総合計画審議会が書面開催となった経緯と経過について説明。
- ・パブリックコメントの結果について説明。
- ・第六次諏訪市総合計画（案）について、答申に向けた内容確認と意見交換を行った。

○ 会議録

1 開会

（前田企画部長）

- ・第3回諏訪市総合計画審議会を開催する。
- ・ご存知のように第2回諏訪市総合計画審議会については、新型コロナウイルス感染症の関係で書面会議とさせていただき期間が空いてしまったが、本日はよろしくお願いたします。
- ・本日委員総数17名中12名の委員に出席いただいている。

2 副市長挨拶

（前田企画部長）

- ・諏訪市副市長の後藤よりご挨拶申し上げます。

（後藤副市長）

- ・改めましてこんにちは。それぞれお忙しい中、第3回諏訪市総合計画審議会にご出席をいただきましてありがとうございます。
- ・第2回目の審議会は8月に予定をしていたが、コロナの感染が拡大していた時期というこ

とで、書面の開催とさせていただいた。その折には、計画に対するご意見をいただきたいとお願したところ、委員各位から、大変多くの貴重なご意見をいただいた。改めて御礼申し上げます。

- ・並行してパブリックコメントも実施してきた。本日の審議会においては、委員の皆様からいただいたご意見及びパブリックコメントでいただいたご意見をどのように反映していくか、しっかり説明させていただき、確認をいただければと思う。
- ・本日の審議会の中で一定の方向性をまとめて、次回の審議会においては、市長に答申をいただきたいと思っている。忌憚のない意見を出していただくようお願い申し上げます、私の挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

(前田企画部長)

- ・以降の進行は会長の岩波様、よろしくお願いいたします。

3 報告事項

(1) 第2回諏訪市総合計画審議会について

(岩波会長)

- ・皆さんこんにちは。後藤副市長及び前田企画部長から説明いただいたとおり、本日は第3回審議会ではあるが、顔を合わせるのは2回目。その間に書面開催となった第2回審議会があった。第2回審議会は会場に集まり、意見をうかがうことを予定していたとのことだが、かえって書面とした分だけ、皆さんから多くの意見が出たという印象を持っている。
- ・多くの人の前で話すよりも、質問事項が書きやすかったということもあるが、相当多くの意見が出され、それについて事務局で回答いただいた。その結果を反映し、本日協議する案は修正されている。また、パブリックコメントも実施しており、その意見等も踏まえたものとなっている。
- ・これを確認し、最終案をつくっていくというのが今回の第3回諏訪市総合計画審議会。
- ・総合計画は前回まで10年スパンの計画だったが、今回から5年になった。これは時代の変化が激しいということの意味しており、行政もそれを理解していると感じられる。
- ・本日は新たな案について説明を受けて、委員の皆さんからご意見をお聞きする。
- ・報告事項 (1) 第2回諏訪市総合計画審議会について、事務局から説明をお願いします。

(下澤企画政策係長)

※資料1を基に、第2回諏訪市総合計画審議会が書面開催となった経緯と書面開催の結果について報告。

(岩波会長)

- ・書面開催となった経緯を中心に説明をいただいた。ご意見ご質問あればお願いします。
(※質問及び意見なし)

(2) パブリックコメントの結果について

(岩波会長)

- ・協議事項 (2) について、事務局から説明をお願いします。

(寺島企画政策課長)

※資料 2 を基にパブリックコメントに対する市の考え方の説明

(茅野企画政策係主査)

※資料 2 を基にパブリックコメントの結果詳細について説明

(岩波会長)

・パブリックコメントの結果を中心に説明をいただいた。ご意見ご質問あればお願いします。

(A 委員)

・パブリックコメントへの回答はどのように行うのか。

(茅野企画政策係主査)

・審議会終了後、諏訪市公式ホームページ上で公開する予定。

4 協議事項

(1) 第六次諏訪市総合計画（案）について

(岩波会長)

・協議事項 (1) 第六次諏訪市総合計画概要について、事務局から説明をお願いします。

(茅野企画政策係主査)

※資料 3 及び資料 4 を基に第六次諏訪市総合計画（案）について説明。主に書面開催となった第 2 回諏訪市総合計画審議会においていただいた意見、パブリックコメント及び庁内策定部会の検討により大きく変更した点を説明。

(岩波会長)

- ・我々の意見やパブリックコメントをどこにどのように反映したのかの説明をいただいた。K P I の詳細も参考資料に掲載し、カタカナ文字についても用語解説をいただいている。これが今時点で最終案に近いものとなる。
- ・その案を説明していただいたが、修正すべき点についてはご意見いただきたい。

(B 委員)

- ・27 ページの地域ブランド価値の向上について、総合計画の中でここが本当に重要であると思いつつも読んでいた。文章的にも積極的な文章。最初から読んでいくと勢よく読める。「今後も、各分野において魅力を高めることは重要ですが、待ちの姿勢ではなく、自ら魅力を発信していく攻める姿勢が必要です。」と書いてあることは素晴らしい。ただその後の部分について、「これまでは、広報広聴という個別の分野を設けていましたが」以降について意味が前の文と重なって見えてしまう。ここで読むスピードがダウンしてしまう印象を受けた。最後の段落以降が無くても意味が通じるのではないかと思う。
- ・行政には色々な事業があるが、情報発信が一番大事なことではないかと思う。情報発信をすれば、やっていることがわかる。参考に、諏訪市の公式 YouTube チャンネルで、投稿された動画が 71 本、登録者が 691 人。茅野市のビーナネットちのは 304 本投稿されており、登録者が 1990 人で諏訪市の約 3 倍。見比べると茅野市の方が、身近な生活から移住まで幅広く発信している。これが茅野市のブランドなんじゃないかなって見比べて思うようになった。また、スーパーシティ構想について今井市長自らが紙芝居動画で、市民向けに説明しており誰が見てもわかりやすかった。

- ・情報発信というのは、諏訪市がこれから頑張らないといけない分野ではないかと思う。

(寺島企画政策課長)

- ・27 ページの下の4行。実はこの中で、事務局として一番伝えたい部分は、下から3行目の「広報部局に限らずどの分野においても積極的な情報・魅力発信をしていく」という部分。文章についてはシンプルに整理をしていきたいと思う。
- ・それともう一つ、105 ページの下から3つ目。それぞれの分野が積極的に発信をしていくことは大前提であるが、その仕組みは担当でしっかりと作っていくことも示している。来年度以降、情報発信力を強化していきたいと思っている。

(A委員)

- ・茅野市の話だがスーパーシティ構想についても本当は広域で考えてもらいたい。

(C委員)

- ・30 ページの実現すべき重点目標④、みんなに愛のあるライフステージの実現。「結婚・出産の希望をかなえる」と括弧書きで書いてあるが、皆さんが想像するライフステージとは何か。誕生から最後の終活まで、学童期があったり成人となったりと色々なものを想像すると思う。掲載された図には、どのライフステージでも希望を持てる愛のあるまちと書いてあり、それに関連して出産や育児があることは理解できる。しかし、私はライフステージとは誕生から死ぬまでと捉えているのでこの図では循環のサークルのように見えてしまう。

(茅野企画政策係主査)

- ・図ではサークルのような輪で表現させていただいている。段階が進むごとに、次のライフステージにつながるというような表現とした。これについては、サークルがいいのか、それとも階段のような四角で表していくのがいいのかという色々な考えがある中、現状は輪で表している。
- ・また、括弧中の表現、「結婚・出産」と理由については説明せずに申し訳なかった。今回、地方創生総合戦略を総合計画に一体化している。国の方向性も同じだが、しごとが生まれ、人の流れが地方に向く。そして、結婚・出産、その先の子育てに希望を持てるまちを作り、自然増を狙っていくという考えに合わせている。そのためにこのような括弧内の表現となっている。

(D委員)

- ・輪のような絵であることからライフステージではなくライフサイクルという言い方でもよいのではないか。サイクルとすると一つの人生の回転と思える。

(寺島企画政策課長)

- ・ライフサイクルという循環として表すか、ステージで表すかはどちらもよい考えだと思っている。仮に階段状の表現とした場合に、揺りかごから墓場までという考えとするとゴールが墓場という見方をされてしまう可能性もある。それが図をサークルにした理由。図を含めもう少し整理したい。

(E委員)

- ・好循環していくという意味はよくわかるが、循環しない人もいる。それを考えると、全てのステージを経由しないといけないと捉えられてしまう。絵では輪などのつながりになら

ないような表現がいいと思う。

(B委員)

- ・47 ページの障がい者福祉、主な施策方針、防災対策の充実ですが、新しい文章だと、「地域住民に働きかけ」となっている。理由はわかるが、地域住民というと漠然としすぎている。例えば、各自治会等において、というようにどこに働きかけるかを明確化しておいたほうがよいのではないかと思った。
- ・85 ページの観光分野。シビックプライドという言葉。「住民のおもてなし意識の向上につなげます。」くらいの漢字とひらがなの文章でよいのではないかと思うがどうか。
- ・93 ページの防災・危機管理。ここに防災士の資格取得のことが記載されている。補助金で資格取得支援していることは知っているが、その防災士の方が、地域内でどのように活動するかが大切な点。地域内での防災士の活動について加えてもよいのかと思う。

(茅野企画政策係主査)

- ・最初に 47 ページの「地域住民に働きかけ」という表現。これについては、町内会、民生委員、地区というような表現にしてしまうと、役員の方に限られるような意味に捉えられてしまう。地域住民というと近隣住民も含まれる。今、地区の役員だけの活動は限界を迎えている。そんな現状を意見としていただいた中でこのような表現としている。

(B委員)

- ・自治会という言葉を入れておいた方がよいかと思う。災害時支え合いマップの作成を促進すると書いてある。誰がそれをやるのかわからない。

(茅野企画政策係主査)

- ・主語の表現については検討させていただく。
- ・観光分野のシビックプライドについて。カタカナ文字、横文字はできる限り使わないようにはしているが、これは近年使われている言葉であることから使用している。また、用語解説のページで詳しく説明をしている。カタカナ文字、横文字は難しいという反面、色々な意味合いを含み表現できるというメリットもある。

(B委員)

- ・諏訪市は観光だけでなく色々な産業があるまち。そのためか観光業以外の方は、観光に対する意識が高くない。おもてなしというような意識を持つことは難しいという現状がある。広い意味の言葉を使いたいということであれば、それは否定するものではない。

(F委員)

- ・シビックプライドは馴染みのない言葉かもしれないが、工業等の分野でもその気持ちを持ち続けることは賛成。この言葉は浸透させていくことが重要である。

(岩波会長)

- ・では、シビックプライドという言葉は使い、用語解説を掲載することとする。

(茅野企画政策係主査)

- ・防災士の件について。防災士の資格を取得していただき、地区の防災力を高めていこうという補助制度がある。地区から推薦された方に対して補助をして、地区の中でその力を発揮していただくことを狙った制度となっている。資格を取得するために知識を身に付けていただき、実践していただく取組である。

(前田企画部長)

- ・防災士の人数は増えてきているが、防災士同士のネットワークに入ることや地域に入り活動していくことは必要。その意味合いの文言を付け加えたい。

(C委員)

- ・防災士は資格を取っただけでは何の力もない。消防団に関わってきた多くの方が取得をしている。そういう方々の力をどのように地域で活用できるか。防災ネットワークを作って、有事のときには助け合う、啓発活動をしていきたいという思いはある。来年度からの活動で地域と深い学びを展開していけるようにはしていきたい。
- ・危機管理室からも必要な知識や情報を防災士の方に与えていただき、それを還元していくという形をとれば良いと思う。

(前田企画部長)

- ・活用というのは非常に重要な課題。防災士の活用は始めてから間もない。地域への浸透といった部分も当然必要になってくる。皆様の意見を参考にまとめていきたい。

(G委員)

- ・45 ページに福祉活動の拠点整備という部分があるが、この内容は整備という内容ではないのではないか。福祉、ふれあいサロンは福祉活動として良い活動ではあると思う。
- ・51 ページ。生活困窮者の自立支援という項目。生活困窮者の自立支援に、社会福祉協議会の具体的事業として「生活福祉資金貸付など」とある。正直貸付の対象になる方はごくわずか。社会福祉協議会の事業とはお金というよりも、社会的孤立を防ぐという部分が一番求められている。貸付と記載すると、お金を貸してくれるところだと思ってしまうので検討いただきたい。

(茅野企画政策係主査)

- ・45 ページの「拠点整備」については、内容がソフト中心であり確かに不自然。タイトルの言葉を精査して修正したい。
- ・51 ページの社会福祉協議会の具体的事業について。生活困窮者自立支援では、最終的な自立に向けた取組が必要。実態に合った修正をしていきたいので、具体的事業について後程実態を教えていただきたい。

(岩波会長)

- ・本日の協議内容を反映した案が、次回答申するものとなる。次回の審議会でその案を確認するが、確認して変更ないようにしたい。
 - ・それも踏まえ本日の協議はこれまでの内容で終わりとしてよろしいでしょうか。
- (※異議なし)

(岩波会長)

- ・ありがとうございます。それでは、事務局に進行をお返しする。

5 その他

(前田企画部長)

- ・貴重なご意見等いただきありがとうございました。
- ・本日いただいたご意見を計画に反映したものを皆様にフィードバックし、次回の審議会時

には最終確認をしていただき、答申していただく。

- ・事務局から事務連絡をさせていただく

(茅野企画政策係主査)

※今後の日程等事務連絡

6 閉会

(前田企画部長)

- ・閉会のご挨拶を、副会長の小池様よろしくお願いいたします。

(小池副会長)

- ・皆様、ご審議お疲れ様でした。
- ・本日審議した総合計画を基に個別の事業が計画されていく。これからますます変化の激しい時代となる中で、実現すべき重点目標は本当に多様であり、多彩であり、大切なものになってくるかと思う。よりよい事業が実施されている諏訪市になるように、私たちが見守らなければならないと思った。
- ・諏訪市の業務としての計画ではあるが、私たち住民や企業や団体等にも課せられた使命もあるように感じた。一緒になってやっていきたい。
- ・そんな願いを込めて、本日の会議を終わりとし、また 11 月 10 日にお会いしたい。
- ・第 3 回諏訪市総合計画審議会終了いたします。お疲れ様でした。

(閉会 午後 2 時 37 分)